

有病者の歯科治療 岩崎氏が記念講演

大阪市北部・同東部地区は、総会の記念講演として「病気を抱った患者の歯科治療」3回シリーズの最終回を3月23日、M&Dホールで開いた。

膠原病や関節リウマチ患者などの口腔病変の特徴や歯科治療で注意すべき点を、歯科医師ら42人が学んだ。講師は岩崎剛氏(兵庫医療大学薬学部教授)。

膠原病では、口腔内潰瘍を認める全身性エリテマトーデスやベーチェット病、開口困難や舌小体短縮などを伴う全身性強皮症などがあるとした。

関節リウマチでは、環軸椎間亜脱臼患者の場合には前屈姿勢で突然死することがある、治療時に口腔粘膜が損傷しやすい、口腔内乾燥、糜爛(びらん)、潰瘍を伴いやすいなどの注意点を説明。ステロイドを投与されている人は、同時にビスフォスフォネート製材が投与されている場合があるので注意す



膠原病やリウマチ患者の歯科治療について語る岩崎剛氏＝3月23日、M&Dホール

べきと指摘した。

また、歯科で見かけるシェーグレン症候群(SS)は、唾液分泌低下による口腔病変を高頻度

認め、現在患者は10〜30万人が罹患している。疼痛過敏(原因不明)・抑うつなどの2点が特に多いと解説した。

(淀川区・松本博)

大阪市北部地区

講演に先立って北部地区は総会を開き、2017・18年度の活動のまとめと決算、次年度の活動方針と役員体制、予算を決めた。評議員8人を選出し、責任者に松本博氏(淀川区)を再任した。次年度も協会らしい講習会の開催を始めとする活動に取り組んでいく。

2018年度

各地区総会

地域医療の発展に尽力

大阪市東部地区

大阪市東部地区は3月23日、総会をM&Dホールで開き、2018年度の活動・収支報告、19年度活動方針・予算・役員体制の各議案を確認した。活動報告では、院内感染防止対策の研修会や臨床講習会など各種講習会の開催を報告した。また、城東・生野両社協会で会長を務めるなど積極的な活動に加え、地区として初めて「子ども食

運動への参加呼びかけ

泉州地区

泉州地区は3月30日、エアポートインプリンス泉佐野で総会を開き、26人が参加した。

総会では、2018年度の活動として、各種

科分野の医療訴訟の判例を示し、患者とのトラブルを最小限に留め、クレームを拡大させないための方法論を解説した。

次年度の役員体制承認

東大阪・八尾・柏原地区

東大阪・八尾・柏原地区は3月30日、保険医会館で地区総会を開き、2018年度活動のまとめと19年度活動方針、18年度決算と19年度予算の各案、19・20年度の地区責任者、評議員会、地区役員候補が矢部あづさ地区責任者から提案され、いずれも承認された。記念講演では、吉田裕志副理事長と水野順社保

講習・文化企画旺盛に

北河内地区

北河内地区は総会を3月23日、ドーンセンターで開き、2018年度活動報告、19年度方針・役員体制、18年度決算と次年度予算のすべての議案を賛成多数で承認した。活動報告では、3回の講習会の開催、ひらかたこどもまつりでの健診活動、京都宇治散策などの

総会後は「医療過誤・クレーム・トラブルから学ぶ歯科医院の生き残り戦略」をテーマに佐久間泰司氏(大阪歯科大学歯科麻酔学講座准教授)が

記念講演。佐久間氏は歯

意見書採択の成果報告

堺・高石・和泉地区

堺・高石・和泉地区は3月23日、サンスクエア堺で総会を開き、19人が参加した。

2018年度の活動では、▽協会として初めてとなる子ども食堂での歯

北欧の 歯科医療 最前線 part.2 (9)



NPO法人
「最先端のむし歯・歯周病
予防を要求する会」理事長
西 真紀子

同じ職業で、同じ疾患に向き合いながら、国によって総体として歯科医師の処置方針が違ふことは十分に考えられる。日本と北欧を比べてみるとどうだろうか。

最新の情報を 入手できる英語力

日本の場合英語に対するハズレがあるためか、情報の伝達が遅れがちである。現在、重要な論文は必ずと言っていいほど英語で出版されるので、翻訳を経るまで待つと年単位で世界から遅れてしまう。北欧の歯科医師で、年齢を問わず、英語が話せない、読めない人と出会ったことはない。学生時代から英文に触れて、最新の情報に馴染んでいる。PhD(博士)論文も必ず英語で書かれる。

臨床に影響を 与える特徴

日本の歯科医師は総じて手先が器用で、修復、補綴、歯内療法など一つの細かな作業に長けているが、一方、北欧では全体像や長期的展望を見通すことに長けている。カリオロジーという齲蝕にまつわるあらゆる分野を統

日本と比べた北欧の歯科医師の特徴

賢明な患者が
歯科医師を育てる

このような北欧の歯科医師を育てている一因として、患者の

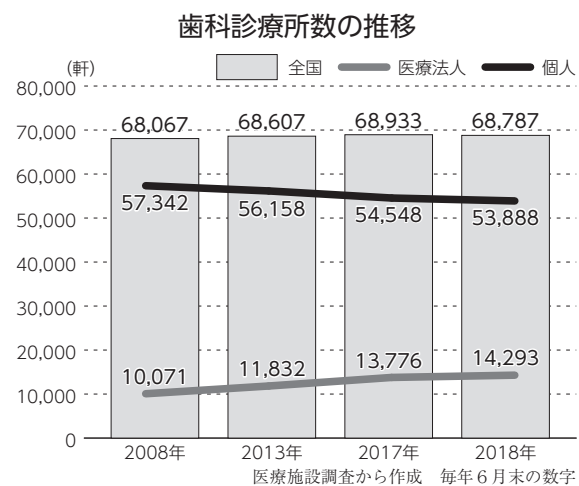
意図が明確であることも言及しておきたい。教育レベル、問題意識、健康意識が高く、自分の意見を抑えるより主張することの方が好まれ、年齢、性別、立場による上下関係もほとんどない国民性のため、患者が賢明なのである。税金が高い分、それで行われる医療サービスで齲蝕や歯周病が繰り返し発症して、結局無歯顎になるような矛盾があると、国民は黙っていないだろう。

参考文献

1. Meijre I, Kallest I C, Stenlund H. Incidence and progression of approximal caries from 11 to 22 years of age in Sweden: A prospective radiographic study. Caries Res. 1999;33(2):93-100.
2. Bjornal L. Indirect pulp therapy and stepwise excavation. Pediatr Dent. 2008;30(3):225-229.

数字で見る 歯科医療

施設数が減少に転換



近年微増傾向にあった歯科診療所数が2018年に減少に転じた。厚生省の医療施設調査によると、17年6月末時点では全国で6万8933施設あったが、18年6月末は6万8787施設となり、146減少した。

内訳をみると、医療法人は1万4293施設で前年同月比517増。個人診療所は5万3888施設で同660減となった。低歯科医療費政策の

下で経営難を抱えていることに加え、施設基準に対応できずに閉院を余儀なくされるケースが増加している可能性がある。都道府県別に歯科診療所数の増減をみると、関東・北陸地方など18都県で増加したものの、他の地域では福岡を除いて軒並み減少した。大阪は5536施設で前年から13減少した。右肩上がりが増えてきた歯科診療所数は転換期を迎えている。

科健診、歯みがき指導の取り組み▽高石市で採択された「後期高齢者の窓口負担の2割化に反対する」意見書など意見書採択要請運動などを報告。歯科医療改善に向け

て運動を強めていくことが確認された。総会後は、小倉孝文氏(堺市立総合医療センター歯科口腔外科部長)が「リスクを持った患者の歯科治療」をテーマに記念講演。高血圧、糖尿病、認知症、妊婦など患者の状態に応じた治療上の注意点を解説した。